

## 只見高校の更なる活躍のために 大型ファンなどを寄贈

株式会社社会津工場は、株式会社東邦銀行の「とうほう・ふるさと総活躍応援私募債」を活用し、県立只見高校に学校用品を寄贈しました。

寄贈式は5月27日に同校で行われ、同校OBでもある鈴木直記社長が「生徒一人一人が活躍できるよう祈っています」とあいさつし、伊藤靖隆校長と生徒会長の小杉美菜さんに目録を手渡しました。

小杉さんは「明日からの生活が豊かになるのが楽しみです」と感謝の言葉を述べました。

○「とうほう・ふるさと総活躍応援私募債」…株式会社東邦銀行の寄附型私募債で、手数料の一部で、寄贈を行っています。



▲学校用品の目録を受取った小杉美菜さん（中央）

## 只見町建設業協会

### 「SDGs宣言書」策定、小学校に絵本の寄贈



▲宣言書を手取る美馬会長（中央）

只見町建設業協会は、株式会社東邦銀行の「とうほうSDGsサポートサービス」を通じて、「SDGs宣言書」を策定し、宣言書の交付式が6月4日に役場町下庁舎で行われ、東邦銀行只見支店の佐藤健一支店長から、建設業協会的美馬典昭会長に宣言書が手渡されました。

美馬会長は、「柔軟な発想と行動力で地域の発展につくしたいと考えています」とあいさつしました。

また、同建設業協会から町内3小学校に工事に関するしかけ絵本が寄贈されました。

## 三条市と野球を通じて交流 只見高校が交流試合 「第3回三条市高校野球交流大会」開催

三条野球連盟の主催で「第3回三条市高校野球交流大会」が6月1日、2日に三条パール金属スタジアムで開催されました。只見町側から只見高校が招待され、三条市から三条高校、新潟県央工業高校、三条商業高校、三条東高校が参加し、交流試合を行いました。

2日目の2試合目に降雨により試合中止となりましたが、只見高校は2日間計4試合を通して、三条市との交流を深めました。

また、只見高校野球部員は、帰路の中で国道289号八十里越の工事区間を見学しました。



▲工事現場を見学した只見高校野球部メンバー

## ようこそ只見町へ えちごトキめき鉄道「雪月花」入線

新潟県のえちごトキめき鉄道の列車「えちごトキめきリゾート雪月花」(以下雪月花)が6月8日、9日に只見線に入線しました。

雪月花は昨年只見線に初入線し、今回は1年ぶり2回目の入線となり、只見駅では、集まった方が手を振るなどして入線をお出迎えしました。

また、2日目にはえちごトキめき鉄道株式会社の代表取締役社長の鳥塚亮氏が来町され、JR只見線利用促進実行委員会から、雪月花の入線の他、全線運転再開前も含め、只見線の復興、魅力向上に大きく寄与されたことへの感謝状を贈りました。



▲感謝状を受取った鳥塚氏

## 只見町がロケ地になっています

### 「青春18×2 君へと続く道」応援プロジェクト進行中

配布中のロケ地マップや駅前に設置されたのぼり旗



町内がロケ地となった日本と台湾の合作映画「青春18×2 君へと続く道」を応援するプロジェクトが町内で進行中です。

第1弾では、オリジナルロケ地マップを作成しました。マップは、只見町インフォメーションセンターにて、協力金100円で配布しています。

第2弾では、町内で撮影地となった4ヶ所(只見駅、黒沢橋、まるまさ商店、アミの家(塩沢))に看板を設置しました。

第3弾では、映画の主人公の足取りを追うような旅気分を味わえる只見線ポストカードが作成されました。ポストカードは只見町インフォメーションセンターで取り扱っています。

第4弾では、のぼり旗を作成、設置し、映画をご覧になったファンの方をお出迎えししています。

今後も只見町と「青春18×2」が盛り上がる企画を進めてまいりますので、ご期待ください。

## 長年の健康づくり活動が認められました

### 馬場光美さん「福島県食生活改善推進連絡協議会会長表彰」受賞

馬場光美さん(梁取)は「福島県食生活改善推進連絡協議会会長表彰」を受賞し、6月12日に表彰状が贈呈されました。

馬場さんは只見町食生活改善推進委員会の会員として、町の健康づくり活動に対し、20年以上にわたり尽力され、平成18年、19年の2年の間、副会長を務められました。その活動が評価され今回の受賞となりました。



▲馬場光美さん(上段中央)と只見町ヘルスマイトの皆さん

## 100人を超える参加者 「町民ハイキング」 開催

只見公民館主催の「町民ハイキング」が6月16日に開催され、町内各地区の子どもから大人まで100人以上が参加しました。

開会式前には集まった人たちで只見線に手をふり、ハイキングが始まってからも、参加者同士で談笑しながらコースを歩き、賑やかなイベントとなりました。

また、天気予報では、雨が心配されていたものの、開催中は雨も降らず気温も高く、只見町の夏を感じることができました。

参加者は、「沢山のひととお話しながら、楽しむことができました。有意義に過ごせました」と話しました。



▲カメラを向けると手を振り応えてくれた参加者

## 子どもたちの想像力あふれるブナ林 「ブナの森の葉っぱ日記」 展示再開



▲只見町の自然と子どもたち、芸術が融合した姿をお楽しみください

昨年度の「ただみ・子ども芸術計画」で子どもたちが製作した葉っぱ日記を余名沢の観察の森で再展示しています。

「ただみ・子ども芸術計画」はユネスコエコパーク事業の一つで、只見町の自然や文化に触れ合い、それらを通じた芸術活動の機会を設けることで、只見町の子どもたちが地域に学び、未来や才能をひらくことを目的として、アーティストの岩田とも子さんや、福島県立博物館の協力で開催されました。

昨年ご覧いただいた方も、まだご覧いただいていない方も、子どもたちのアートと只見町のブナ林が融合した素敵な空間をぜひ感じてください。

## 地域住民の人権を守る 人権擁護委員に渡部仁一さん

前任者の任期満了に伴い、令和6年7月1日付けで渡部仁一さん(塩沢)が法務大臣から人権擁護委員に委嘱されました。

人権擁護委員は、人権相談会開催や人権に関する啓発活動を行うなど、日々問題解決に取り組んでいます。

渡部仁一さんは、只見町担当として、角田行雄さん(小林)、渡部早苗さん(小川)と一緒に活動されます。



▲渡部仁一さん

○人権擁護委員…「人権擁護委員法」に基づいて、その職務を行います。この制度は様々な分野の人たちが、地域の中で人権思想を広め、人権が侵害されないように配慮して、人権を擁護していくことが望ましいという考えから設けられたものです。